

赤ちゃんパワー

高松文三

2月24日、夜遅く6人目の赤ん坊が生まれた。例によって、自宅出産である。6人目ともなると馴れたもので自力で出来ると思ったのだがやはり女房としては私一人では心細いらしく今回も産婆さんに来てもらった。ともかくも今までで最高のお産であった。これで私も心置きなく子づくりは終了できそうである。

さて今回の大安産の一番の功労者かというとやはりお灸であったかと思う。殊に最後の1ヶ月は毎日のお灸をした。とったツボは、腎俞(BL23)、次髎(BL32)、三陰交(SP6)、照海(KI6)、至陰(BL67)以上の5つである。至陰は熱が中の方に染み通る感じを本人に確認しながらやったのだがそれも良かったと思う。

破水してから9分で赤ん坊が出てきた。頭が見えたと思うとあれよあれよという間に私の手の中にストンと落ちた。8ポンド6オンスの女の子である。産後の肥立ちも今までで一番スムーズだったと思う。前回、女房は子宮収縮の痛みでだいぶ泣かされたのだが今回はそれもなかった。いつも問題になる貧血の方も友人が作ってくれたわかめスープのおかげで事なきを得た。むろんお灸が全てとは言わないが、女房もお灸の功が大きかったと認めている。民間療法としてお灸は食事療法を除けば、その効力、手軽さ、安全性、どれをとってみてもこれに勝る者はないと信ずる。

こんな事は珍しい事でもなんでもないのか知らないが、私のうちは誰も健康保険に入っていない。女房も子供たちも何かあるごとに私が治療してきた。子供たちは注射というものを一切受けた事がない。まずは自分と自分の家族の健康をしっかり管理するのが治療師としての心構えだと思っている。現代医学を否定する気は全くない。当たり前だが交通事故で大怪我でもしようものならためらわずに現代医学のお世話になる。ただ運良く今の所は現代医学のお世話にはならず済んでいるというだけの事である。

家族を治療していてよく思うのだが女房というのは治療師にとって最大のチャレンジである。我が女房も頑強な体と呼ぶにはほど遠く、結婚当初からいろいろと問題があった。こんな人が6人も子供を産んだというのは奇跡に近い。私のおかげである。なにせ私と結婚していなかったら今まで生きていなかったかもしれないのだから。それを女房に言う感謝されるところか、私と結婚してなかったら絶対こんなに子供を産まされる事はなかったろう、と反対に痛い所を突かれた。私のせいであると。ともかくこの人を治療する事でだいぶ色々な勉強をさせて

もらった事だけは確かである。ある意味、女房が治療できたら一人前の治療師とまで言い切っていいような気さえするのだ。

さて前置きが長くなったが赤ん坊の事である。この子は私の恩人である。というのは今振り返ってみるとこの子が生まれるまでの約半年は私のこれまでの人生で大いなる危機であった。説明しだすと長くなるので端折らせてもらうが、子供の学校でのトラブル、転校、引っ越し、家の訴訟事件、こういったことが立て続けに起こった。殊に家に関しては訴訟のせいで、買い手はいるのに売れないという状態が続く、結果的には4ヶ月間ダブルモーゲージを払い続けるはめに陥った。つい最近調停があり、やっと問題は解決したのだが、しばらくは全く先行きが見えず不安な毎日が続いた。赤ん坊が生まれたのはまだまだ解決の兆しが見えない頃で、私自身は一連の事件で精神的にだいぶダメージを受けており、かなり人生に対して悲観的になっていた。女房とも毎晩のように出口の見えない堂々巡りの会話を交わっていた。運命に翻弄されていた感じが強い。

そんなときにこの子が生まれてくれた。仕事からヘトヘトになって帰ってきてもこの赤ん坊の純粋無垢な顔を見ていると、いろんなモヤモヤも吹っ飛んでこわばった顔もほころんでくるのである。それまで悩んでいた事も、気がかりな事も、皆どうでも良いような事に思えてくるのだ。すべてを受け入れる気になれるから不思議である。この子を抱いてそのつぶらな瞳を見ていると、得も言われずぼろぼろと涙がこぼれるときもある。要するに私はこの子に癒されているのだ。この赤ん坊のおかげで正気に戻れたような気さえする。人生を悲観するという呪縛から私を解き放してくれたのだ。だから恩人である。

すごいと思うのは赤ん坊自身は別に私を癒そうとかそういう意図は全くなくて、ただ単にそこに存在するだけである。存在そのものが癒しであるというのは凄い。ある意味治療師としての究極の姿である。少なくとも私はそれを目指したい。今生で出来なくても良い。(多分出来ないと思う。)来生、再来生、何度生まれ変わってもそれを目指したい。こんな素晴らしい目標を与えてくれた赤ん坊に感謝する。そして、そんな子を産んでくれた吾が女房にも感謝する。有り難う。

高松文三

1982年、ニューメキシコ・サンタフェのKototama Instituteを卒業。1988年よりグラスにて開業、現在に至る。鍼灸に加え操体法、マクロバイオティックも指導する。現在、テキサス州・グラス市にて開業する。